



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2023.7-8

No.459

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



翼の細長い鳥

佐野 和宏(越谷市)

● はじめに

本誌2018年5月号に、「不遇な猛禽の汚名返上」というタイトルで、トビは高性能グライダーであるという内容の投稿をしました。普段はあまり人気のないトビも帆翔に特化した形状・飛び方で優れた能力を発揮していることを紹介したかったためです。

この投稿の最後にミズナギドリ目の鳥はトビにも勝る高性能グライダーだという話をしましたが、今回はこのミズナギドリ目の鳥の素晴らしい“性能”について書いてみたいと思います。

● サーマルソアリング

初めに鳥の帆翔(ソアリング)についてのおさらいです。

探鳥会でオオタカなどの猛禽類が回りながら上昇していくのを見ることがありますが、これらは太陽の光で地表の黒っぽい部分や山の東向きの斜面が他の場所より温められることから発生する熱上昇風(サーマル)を利用しているものです(サーマルソアリング)。グライダーやパラグライダーなどの航空スポーツでもこのサーマルを使って滞空時間を稼いだり、上昇して移動したりします。渡りの時期のタカ類は主にサーマルソアリングによって高度を稼いで長い距離を移動します。

● リッジソアリング

もう一つの帆翔法として斜面上昇風(リッジ)を利用するリッジソアリングがあります。風が障害物や山の斜面などにぶつかると上向きとなりますが、この風を利用する飛び方です(図-1)。大きな建物でも発生するので、カラスなどがよくこれで遊んでいます。

海岸では日中に海から内陸に向かって風が吹く(海風)ので上昇風が発生しますが、カモメなどはこれを利用してのんびりと飛んでいることがあります(図-2)。

図-1

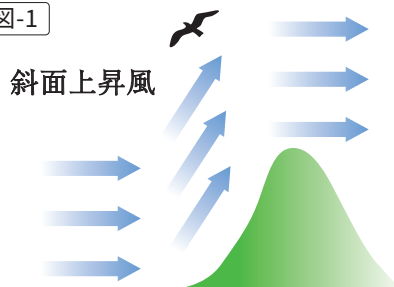
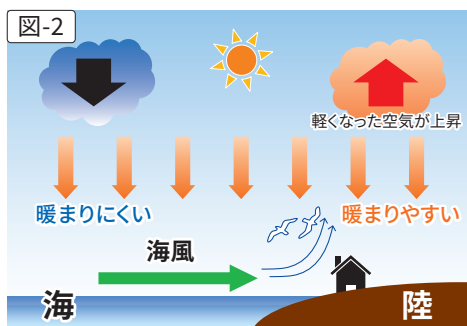


図-2



このリッジソアリングもグライダーがよく利用しますが、前記の様に大きな障害物が必要です。

● 海上の上昇風

これまでは地上での帆翔法についての話でしたが、海の上はどうでしょう？

海水は常に混ざり合っていますので、局部的に空気が温まるということはなくサーマルは発生しません。また、海面は大きくみれば



ほぼ平らですので、強風が吹いても斜面上昇風は発生しません。前線や積乱雲など大規模な気象現象を除けば海上では上昇風は無いことになります。

ところが海岸から沖合のオオミズナギドリ(左写真)を見ていると水面ギリギリ

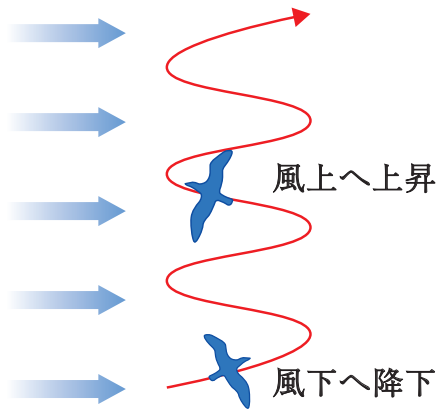
のところをほとんどはばたかずに飛んでいるのがわかります。

また、支部の探鳥会で三宅島に行ったことのある方は帰りの船でアホウドリが全くはばたかずに飛び続けているのを見たことがあるかもしれません。それではミズナギドリやアホウドリなどはどのようにして飛び続けられるのでしょうか？

この帆翔法はダイナミックソアリングと呼ばれていて、一定以上の風が吹いていれば羽ばたかずに飛び続けることが出来るというものです。海上を長距離移動するこれらの鳥にとっては、無くてならない技術です。

● ダイナミックソアリング(飛び方)

図-3



ダイナミックソアリングによる飛行法の一般的な説明は以下の様なものです(図-3)。

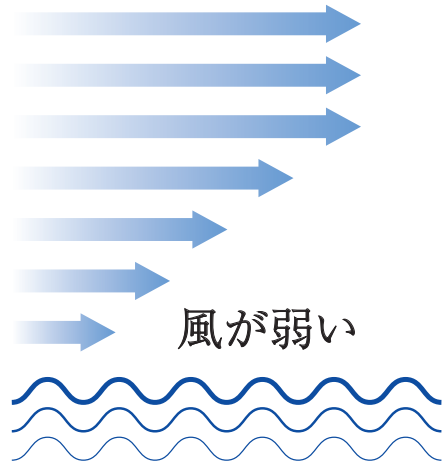
- ① 上空から風下側へ下降してスピードをつける
- ② 水面ギリギリまで下降し素早く風上側に旋回して上昇
- ③ スピードが落ちたところで素早く旋回して風下側へ下降

実際に見たことのある方は“確かにこんな感じ”となると思いますが、なぜ羽ばたかなくていいか感覚的に理解することは難しいのではないのでしょうか。

● ウインドグラジェント

これらの鳥が利用しているのはウインドグラジェントと呼ばれる高度による風速の違いです。

図-4



上空で強風が吹いている場合でも海面や地表と接触している部分は摩擦によって風が弱くなります(図-4)。風の弱い海面近くと、風の強くなる上空を移動することによって、風からエネルギーを得て飛び続けることができます。その原理を説明します。

● ダイナミックソアリング(原理)

原理については、資料によって内容が若干に異なっています。ここでは綿貫豊著『海鳥の行動と生活』(生物研究社)を参考に説明します。

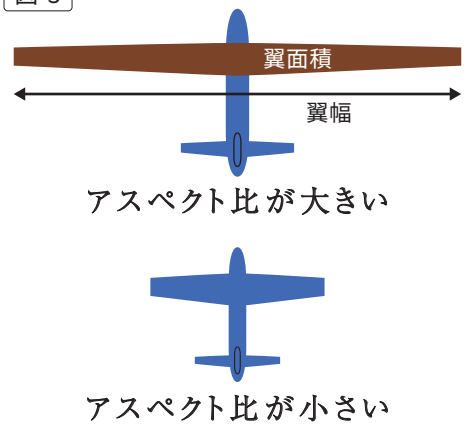
まず上空から風下へ向かって海面ギリギリまで降下してスピードをつけ、次に風上側へ旋回し上昇します。この際、上昇するにつれてウインドグラジェントによって正面からの風は強くなるので、海面に対するスピードは落ちていきますが、対気速度(大気に対するスピード)を保つことができます。この結果、得られた揚力で、最初に降下を始めた高さまで上昇することが可能となります。

海鳥は数多くいますが、このダイナミックソアリングが出来るのはミズナギドリ目の一部のみです。その訳は、翼のアスペクト比に関係します。

● 翼のアスペクト比

ダイナミックソアリングが出来る条件は2つあります。

図-5



まずは滑空性能がいいということです。より高速でより遠くまで飛べるということになりますが、この性能を示す指標として翼のアスペクト比があります。“翼幅”(鳥でいうところの翼開長)の2乗を“翼面積”で割った値という定義で、簡単には翼の細長さを表すものです(図-5)。

この値が大きいほど滑空機としての性能がいいということになりますが、ミズナギドリやアホウドリはこのアスペクト比が他の鳥に比べて非常に大きくなっています。

● 高度な飛行技術

次に必要なのは高度な飛行技術です。強い風の中をスピードや高度を失わないように最適なコースで飛ぶには極めて高度な飛行技術が必要です。実際の海面は波やうねりで常に動いていますし、風向きや風速も常に



クロアシアホウドリ

変化しています。これらの条件の全てに対応し常に姿勢を制御しながら水面ギリギリまで高速で降下したり、絶妙のタイミングで旋回したりできるのは全身がセンサーで且つ、全身が舵となる鳥ならではのものです。技術的に優れ

たこの飛び方はグライダーのパイロットにとっても憧れの的の様です。アスペクト比や滑空性能ではすでにアホウドリを上回っていますが、操縦性は遥かに及ばず特に有人のグライダーではとてもまねのできるものではありません。

より小回りが利く小型軽量のラジオコントロール(ラジコン)グライダーでは、山の尾根などでダイナミックソアリングと称した飛ばし方をしていますが、海上でのダイナミックソアリングとは全く違うもの様です。当分、グライダーが海面ギリギリをソアリングするのを見ることはできないでしょう。

● 失ったもの

さてこの高性能グライダー、ミズナギドリやアホウドリが失ったものはなんでしょう?

もうお気づきかもしれませんが“容易に飛び上がれない”ということです。アスペクト比が大きくなると空気抵抗が小さくなる反面、羽ばたいて飛び上



コアホウドリ

がるための揚力も小さくなってしまいます。アホウドリが地上では自由に動けず、乱獲されてしまったのはご存じの通りです。

● まとめ

通常の探鳥では強風は厄介ものですが、海の探鳥では多くの鳥が見られるサインです。

風向きが良ければミズナギドリやアホウドリがダイナミックソアリングをしながら並走してくれるかもしれませんが、海上で飛ぶことに特化したその独特の姿や飛翔術はとても美しく魅力的なものです。

まだ、これらの鳥を見たことのない方は、是非、航路探鳥にも挑戦し、そして強風を期待してみてください。

2022年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 調査部

日時 2022年9月11日 9:53~12:02

場所 さいたま市 大久保農耕地

天候 晴れ

関東甲信地方は千島近海に中心をもつ高気圧に覆われ晴れたため、気温も上がり夏日となりました。また、新型コロナウイルス感染防止のため、今回も一般公開を中止にしました。シギ・チドリ類調査を楽しみにしていた皆様には、ご迷惑をおかけ致しました。

稲刈りが終わってから時間がたつと乾燥化が進んでしまうため、例年より早く調査日を設けました。しかし、稲刈りが終わっている田はほとんどが乾燥しており、調査にはあまりよい環境ではありませんでした。そのような中、観察されたシギ・チドリ類は2種43羽(タシギ属不明種は種数に入れない)で、昨年と比較すると38羽多くなりました。これはムナグロが37羽と、ここ10年では一番多く観察されたためです。

また、参考記録となりますが、同日の午後3時過ぎにA'区に行った人から、ムナグロを77羽、タシギを2羽観察したとの連絡がありました。

〈調査結果〉

	A区	B区	As区	A'区
ムナグロ				37
タシギ		2	1	
タシギ属不明種	2	1		

下の表は秋の調査結果のうち、最近の10年間をまとめたものです。それ以前の記録は「しらこぼと」2012年12月号(No.344)をご覧ください。

※表の中の「タシギ属不明種」はタシギ以外のタシギ属のため、種数には入れませんでした。

(石井 智)

秋のカウント結果 (大久保農耕地)年		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
調査日		9/23	9/15	9/23	9/19	9/18	9/17	9/16	9/21	9/20	9/11
天候		曇	曇	晴	雨	快晴	晴	雨天のため中止	曇	快晴	晴
1	ムナグロ		17	1	13	5			1	3	37
2	オオジシギ					2					
3	タシギ	21	23	1	44	15	20		11	1	3
4	オグロシギ	1									
5	アオアシシギ								2		
	タシギ属不明種	7	4	6		2	2		20	1	3
合計		29	44	8	57	24	22	34	5	43	

※2013年の本調査(9/16)は台風のため中止したので、参考調査の記録を載せました。



野鳥情報

草加市柿木町 そうか公園 (53396636)

◇10月10日、オオムシクイ1、エゾビタキ1、キビタキ幼鳥1、キセキレイ1。10月16日、スズガモ♂1、ツツドリ赤色型幼鳥1、オオムシクイ1(下写真)、キビタキ♂1、♀型2。10月29日、ツミ若鳥1、ジョウビタキ♂1。11月19日、亜種リュウキュウサンショウクイ3、キセキレイ1。ムジセッカ1、池の側のヨシ原やガマ原に潜っている事が多いが、時々近くの常緑樹にも来るので何とか撮影もできた。11月22日、ムジセッカ1(本誌No.457、p.5参照)(鈴木 功)。



蓮田市黒浜 国立病院機構東埼玉病院

◇10月4日、病院敷地内でエゾビタキ15が枝にとまり、飛び交う。3~4羽同時のフライングキャッチも。10月9日、チラリとサメビタキ1、キビタキ♀1。10月20日、病院敷地内の林床でキセキレイ1、桜の木でツツドリ若鳥2。11月13日、病院敷地内でツグミとシメの声を聞くも姿見えず。11月14日、病院敷地内のムクノキにシジュウカラ、コゲラの混群。その中にビンズイ1。その後、しばらくして草地よりブッシュに飛び入るビンズイ3(鈴木紀雄)。

さいたま市南区 笹目川

◇10月25日、コガモ、カルガモ、コサギ、アオサギ、カワセミ、ジョウビタキ♂(今季初認)、シジュウカラ。コガモとカルガモ7羽の群れにアオサギが威嚇しながら割り込む。珍しい状況に出会った(陶山和良)。

蓮田市 西城沼公園とその周辺

◇10月8日、繁殖育雛が終わってから、いなくなっていたムクドリが3羽、戻って来た。10月

9日、久しぶりにコジュケイの鳴き声「チョット来い」を数回聞いた。10月17日、エナガ16とシジュウカラ8とコゲラ1の混群を久しぶりに見た。10月27日、ジョウビタキ♂がTVアンテナで鳴いていた。ここでの今季初認。他にカワセミ、モズ、カケス、オナガ、メジロ、ハクセキレイなど。ここでは、10月にヒヨドリの渡来数が例年より少なく感じ、スズメがいなくなった。12月2日、ノスリが上空を旋回。ここでは珍しい。休耕畑の雑草の実を80±のスズメが採餌。スズメが少なくなってから、久しぶりの大群だ。ナンキンハゼの実を10±のシジュウカラの群れが採餌(長嶋宏之)。

さいたま市西区 大宮花の丘農林公苑

◇10月9日、カルガモ、カワウ、アオサギ、ツツドリ、トビ、カワセミ、モズ、カケス、シジュウカラ、エナガ、エゾビタキ、ハクセキレイ。10月20日、カルガモ、オオタカ、カワセミ、モズ、カケス、シジュウカラ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シメ(今季初認)。11月14日、カルガモ、トモエガモ♂1、カイツブリ、アオサギ、カワセミ、シジュウカラ、メジロ、ハクセキレイ、セグロセキレイ(嶋田富夫)。

さいたま市緑区 見沼自然公園

◇10月11日、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、アオサギ、ダイサギ、コゲラ、シジュウカラ、キビタキ♀、オオルリ若鳥♂(嶋田富夫)。
◇11月22日、オオバン、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オカヨシガモ、カワウ(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園

◇10月2日、キビタキ若鳥1(肩羽など、まだらの幼羽)。他に数ヶ所からもキビタキの声。内1羽はぐぜっていた。他にカケスなど。10月12日、カケス3+。モズ、三つ巴で縄張り争い。カッコウの仲間1飛ぶ。オオタカ若鳥1も上空を舞う。ヒヨドリ小群、飛んで行く。セグロセキレイ、ハクセキレイ、イソシギ、ダイサギ、アオサギ、カワウなど。10月26日、村国池のカルガモ群中にハシビロガモ若鳥1。ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ3種揃う。カケス、シジュウカラ、エナガ、メジロ、コゲラ、ジョウビタキ♂1、キビタキ♀1、モズ、トビ、ツミ(飛

翔)、ダイサギ、ヒクイナ(声)など。10月31日、カケス、ウグイス、アオジが揃った。11月2日、ウグイス、アオジ、ジョウビタキ♂♀。エナガの群れに眉斑なく、頭部汚白色の通称「チバエナガ」見る。11月12日、アカハラらしき声、ベニマシコの声、ヤマガラ、オオタカの声。11月16日、エナガの警戒音響く。ハシボソガラス2にモビングされて飛び去って行くオオタカ♂1。11月25日、元荒川でヒドリガモ25、カルガモ、カイツブリ、イカルチドリ3、カワセミ♂1、セグロセキレイ、ハクセキレイ。ジョウビタキ♀2が縄張りをめぐって牽制し合い。シメ♀1、ここでの今季初認(鈴木紀雄)。

鴻巣市大間一丁目

◇10月14日、モズ高鳴き。今季初認。10月23日午前7時頃、ジョウビタキの声。後刻、姿を確認したら♀だった。今季初認。11月22日午前8時頃、ツグミの「クイックイッ」という声を2声聞く。姿は見られず。今季初認(榎本秀和)。

狭山市 智光山公園

◇10月15日、メジロ、コジュケイ、ヤマガラ13、コゲラ、エナガ、キビタキ、カケス、モズ、カワセミ、ウグイス、カルガモ、アオサギなど。複数の賑やかな声、探してみるとサザンカの周りにメジロ(村越百合子)。

春日部市 内牧公園

◇10月16日、コジュケイ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、コゲラ、モズ、シジュウカラ、ヒバリ、メジロ、ハクセキレイなど(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区 東武アーバンパークライン 岩槻駅

◇10月16日、ドバト6、線路近くに降りて、駅ホーム土台の少し風化した凝灰岩(大谷石)の側面を食べていた。ミネラル補給だろうか(ドバトが海水を呑むこともあるらしい)(鈴木紀雄)。

戸田市～さいたま市南区 彩湖一周

◇10月20日、カワウ、オオバン、カルガモ。キンクロハジロとホシハジロ混群約90羽。まだカモたちの到来には早いか?(陶山和良)。

蓮田市 黒浜沼

◇10月20日、上沼北側のヨシ原周辺で上空を飛ぶマガモ♂1♀3、カケス。10月26日、

上沼でコガモ4、オナガガモ1、カイツブリ2、オオバン8、ダイサギ1。北側ヨシ原で午後4時頃、アリスイ、3ヶ所から鳴き交わし、うち2羽は目視で確認。他にオオジュリン、モズ、カワラヒワ、クイナの声など。11月14日、上沼でオシドリ♂2♀1、コガモ、カイツブリ、オオバン、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ダイサギ、アオサギ、バン。北側ヨシ原周辺でジョウビタキ♂1、チョウゲンボウ2、ハイタカ1、アカハラ♂1、ツグミ1、カケス1。11月25日、上沼でコガモ42、ヒドリガモ♀2、オナガガモ♀2、オオバン16、バン1(鈴木紀雄)。

蓮田市笹山

◇10月20日、耕作地を飛ぶタヒバリ5+。タシギ計4。10月31日、電線にミヤマガラス6。11月18日、ミヤマガラス130(鈴木紀雄)。

越谷市 瓦曽根溜井

◇10月23日、赤水門～市役所までの道の途中でエゾビタキ(下写真)、キジ、イソシギ。キジはペアでいた。エゾビタキは当地で観察を始めてから初記録(中村達郎)。



上尾市上野

◇10月24日、通勤途中、何処からかジョウビタキの声が複数聞こえ、足をとめて探してみる。アカメガシワの木に♀3羽。周囲を少し見てみると梅の木に♂2、今季初確認(村越百合子)。

さいたま市見沼区 膝子

◇10月25日、ミヤマガラスとハシボソガラス約200の混群。ミヤマガラスの方が多し。10月27日、ノスリ1、ハシボソガラス1とヒヨドリ5にモビングされる。11月22日、杭にとまるノスリ1(鈴木紀雄)。

松伏町 県営まつぶし緑の丘公園

◇10月26日、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハ

ジロ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、ツツドリ、オオタカ、キビタキ(下写真)、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガなど(嶋田富夫)。



さいたま市岩槻区南辻

◇10月26日夕方、カラスたちの群入りの中、ミヤマガラス5+を今年も確認(鈴木紀雄)。

さいたま市 鴨川

◇10月28日、島根橋～堀の内橋でカルガモ24、コガモ32、ハシビロガモ16、マガモ♀1、カイツブリ1、バン1、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カワウ、カワセミ、イソシギ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイ、ジョウビタキ、アオジ、モズ、コゲラ、メジロ、シジュウカラ、カワラヒワなど。上流の学校橋付近一帯の電柱、送電線上でカラス20+が待機し、入れ替わり立ち替わり、橋の袂のオオタカ成鳥のとまっている大ケヤキの周りを巡っては、戻って行った(大塚純子)。

川越市 伊佐沼

◇10月28日、イソシギ4、コチドリ1、セイタカシギ5、アオアシシギ7、ハマシギ6、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ダイサギ、コサギなど(鈴木紀雄)。

◇11月12日、コサギ6、ダイサギ4、アオサギ若鳥4、成鳥3、コチドリ3、トウネン5、イソシギ2、セイタカシギ5、コアジサシ、コガモ96、ヨシガモ、オカヨシガモ、トモエガモ、ヒドリガモ102、マガモ32、カルガモ28、カイツブリ3、カワウ4、オオバン3、ハクセキレイ8、セグロセキレイ4、キセキレイ2、オオタカ、トビ、チョウゲンボウ、カワセミ2、モズ、キジ、ホオジロ、カシラダカ、ヒバリ6、シジュウカラ7、メジロ5、カワラヒワ7など(村越百合子)。

◇11月25日、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、アオ

サギ、ダイサギ、コサギ、オオハシシギ、アオアシシギ、イソシギ、ハマシギ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど(嶋田富夫)。

さいたま市緑区 芝川第一調節池

◇11月6日、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、ノスリ2、ハイタカ1、トビ1など(藤原寛治)。

◇12月2日、東側にオオハクチョウ成鳥2、ミコアイサ11(♂はまだほぼエクリプス)、コガモ、マガモ、オカヨシガモ、オオバン、ダイサギ、アオサギなど。西側にマガモ多数。カルガモ、ホシハジロ、オナガガモ、コガモ、オカヨシガモ、カイツブリ、オオバン、ダイサギ、アオサギ、コサギ、ユリカモメ3、ハジロカイツブリ2、ミミカイツブリ1、カンムリカイツブリ多数(鈴木紀雄)。

蓮田市 山ノ神沼(54390521)

◇11月8日、ヒドリガモ12、マガモ3、カルガモ32、コガモ5、カイツブリ4、ゴイサギ2、コサギ2、バン1、オオバン2、ハクセキレイなど(嶋田富夫)。

◇11月21日、岸部のヤナギにいたヒヨドリをハイタカが急襲するも失敗。上空を旋回し、高度を上げ西へ。沼にはカルガモ、マガモ各80。バン、オオバン、コガモ、ヒドリガモ、カイツブリ。カワセミの追いかけ合い(鈴木紀雄)。

加須市下高柳(54391439)

◇11月10日、調整池でマガモ160+、カルガモ120+、ハシビロガモ1、コガモ110+、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、チョウゲンボウ、モズ、シジュウカラ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、ホオジロなど(嶋田富夫)。

さいたま市岩槻区府内

◇11月13日、イソヒヨドリ♀1、スーパービバホーム屋上で美しく囀る(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜

◇11月13日、用水沿いのヨシにつかまって周りを見渡しているホオアカ1。11月19日、ベニマシコの声がするも姿見えず。ハイタカが超低空飛行で目前を飛翔。午後4時の

チャイムに反応してクイナ鳴く。更に午後4時3分、少なくとも2ヶ所からヒクイナの声。ミヤマガラス100。電線にツグミ2。柿の木にオナガ5(鈴木紀雄)。

春日部市増田新田

◇11月16日、電線にズラッと並ぶミヤマガラス150の群れ中にコクマルガラス淡色型1(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区大戸

◇11月16日、灌木にとまるノスリ1(鈴木紀雄)。

久喜市菖蒲町小林

◇11月18日、池でダイサギ32。上空をコミミズクが飛ぶ。カラスにモビングされるが、余裕で旋回して高度を上げ、西へ去った。カラスたちはその後出現したオオタカへのモビングに切り替わり。11月18日、耕作放棄地の草原でホオアカ1。11月30日、道路わきのヨシにいたスズメの群れにハイタカ若鳥が突っ込むも失敗。しばらく地面に佇んだ後、低空で飛び去る。電線にニュウナイスズメ15。ミヤマガラス100の群れ中にコクマルガラス暗色型1(鈴木紀雄)。

加須市中種足

◇11月18日、ミヤマガラス30の群れ(鈴木紀雄)。

白岡市新井新田 柴山沼

◇11月18日、北縁の水面にカンムリカイツブリ2、マガモ♂5♀6、ホシハジロ♂1、オオバン多数(鈴木紀雄)。

蓮田市江ヶ崎

◇11月19日、ノスリ1、飛翔(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区トラスト1号地

◇11月19日、シジュウカラ、メジロ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、コジュケイ、コゲラ、ジョウビタキ、オオタカ、モズ、キジ、カルガモ、カワセミ、ホオジロ、カケスなど(村越百合子)。

越谷市 越谷レイクタウン(53396655)

◇11月19日、ハイタカ1(鈴木 功)。

熊谷市御正新田(54391248)

◇11月20日、田んぼと電線にミヤマガラス300±(嶋田富夫)。

久喜市 昭和池

◇11月21日、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、コガ

モ、キンクロハジロ、ホシハジロ♂1、カンムリカイツブリ20、オオバン、カワウ(鈴木紀雄)。

さいたま市 秋ヶ瀬公園こどもの森

◇11月22日、ハイタカ1、アオゲラ♂1、垂種リュウキュウサンショウクイ10±(鈴木 功)。

深谷市 植松橋上流の荒川(54391262)

◇11月20日、コハクチョウ47、マガモ、カルガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、カシラダカなど(嶋田富夫)。

川越市 新河岸川旭橋下流(53396471)

◇11月25日、ヒドリガモ、アメリカヒドリとヒドリガモの交雑種、マガモ、カルガモ、バン、オオバン、イソシギ、ハクセキレイなど(嶋田富夫)。

久喜市本町(54390583)

◇11月26日、ミヤマガラス約500(嶋田富夫)。

久喜市菖蒲町上大崎

◇11月30日、電線にとまるコチョウゲンボウ♀または若鳥1(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区 岩槻城址公園

◇11月30日、カルガモ5、アオサギ1、ダイサギ2、コサギ1、コゲラ、カケス2、シジュウカラ、ウグイス、エナガ30、メジロ、ハクセキレイ1など(青山美奈子)。

皆野町 破風山

◇12月3日、コゲラ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ベニマシコ、ホオジロ、カシラダカ(青山美奈子)。

加須市駒場

◇12月4日、田んぼでオオタカ幼鳥1、ハイタカ1、コチョウゲンボウ♀型1(鈴木 功)。

加須市柳生

◇12月4日午後4時頃、田んぼでハイイロチュウヒ♀型2、渡良瀬遊水地方面に向かって飛んで行った(鈴木 功)。

表紙の写真

スズメ目セッカ科セッカ属セッカ

セッカはかなりの数撮影したが、広げた尾羽の裏が見える写真は、少ない。

蟹瀬武男(さいたま市)



行事案内

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に氏名・住所・電話番号などを記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーやベテラン会員たちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。



アカハラ(編集部)

参加費：中学生以下無料、会員100円、一般200円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

まだまだ熱中症が心配な季節です。体調を整え、睡眠を十分にとってご参加ください。探鳥会が始まったら、水分はこまめに補給しましょう。飲料水は必携です。前号12ページに、「探鳥会における熱中症対策ガイドラインについて」が掲載されていますので、ご一読ください。暑さ指数/WBGT予報は、環境省の以下のサイトで確認できます。可能な方は、お出かけ前にご確認ください。
https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：9月17日(日)
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交 通：JR北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21発で終点下車。
解 散：正午前に集合地で。
後 援：さいたま市立浦和博物館
担 当：小林(み)、青木、浅見(健)、浅見(徹)、小菅、楠見、中橋、畠山、三好
見どころ：越冬地へ向かう鳥たちにとって“良い風”が吹く季節。思いがけない出会いを期待して、三室の里を歩いてみましょう。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期 日：9月23日(土・祝)
集 合：午前9時30分、松伏記念公園北口

駐車場。

交 通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き9:00発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線 吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き8:40発で「松伏高校前」下車。松伏高校の向かい側が集合場所です。

解 散：正午ごろ、公園内で

共 催：松伏町中央公民館

担 当：山部、石川(光)、佐野、橋口

見どころ：公園では夏鳥と冬鳥の入れ替わりを見つめます。田んぼではバッタ類やカエルを狙うサギたちを観察します。

狭山市・入間川定例探鳥会

期 日：9月24日(日)
集 合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交 通：西武新宿線 本川越8:40発、または所沢8:38発に乗車。
解 散：正午ごろ、稲荷山公園で。
担 当：長谷部、石光、金井、佐藤(久)、瀬尾、中村(祐)、山口、山本(真)
見どころ：今年もエゾビタキは見られるか?稲荷山公園に羽を休める渡り途中の鳥たちに期待。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期 日：10月1日(日)

集 合：午前9時、北本自然観察公園・埼玉
県自然学習センター玄関前広場。
交 通：JR高崎線 北本駅西口から、「北里
大学メディカルセンター行き」バス8:38
発で「自然観察公園前」下車。
解 散：正午前に集合地で。
担 当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋
葉、浅見(徹)、大畑、近藤、柴田、関
口、永野、山本(恵)、吉原(早)
見どころ：今年の残暑は厳しいかな。そろそろ秋
風が立ち、ヒタキ類の渡りが期待され
る時季です。あのユリノキの天辺に、コ
サメビタキが止まってくれますように。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期 日：10月1日(日) 要予約
集 合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園
駐車場、念仏橋バス停前。
交 通：JR浦和駅東口①番バス乗り場から、
東川口駅北口行き8:37発で「念仏
橋」下車。
解 散：正午ころ、浦和くらしの博物館民家園。
募集人数：20名 一般可 開催日の4週間前から
ホームページで受付開始の予定です。
担 当：大井、伊藤、須崎、手塚、中橋、野口、
藤田
見どころ：初心者向けバードウォッチング。また、
初秋の芝川第一調節池を歩いてみ
たい方もお集まりください。お子様を連
れての参加も大歓迎。
ご 注 意：コースの途中にトイレはありません。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期 日：10月8日(日)
集 合：午前9時40分、秩父鉄道 大麻生駅前。
交 通：秩父鉄道 熊谷9:21発、または寄居
8:53発に乗車。
解 散：正午ころに野鳥の森池周辺で
担 当：千島、新井、大畑、関口、高橋、中川、
茂木
見どころ：渡り途中のエゾビタキ、キビタキ、オオ
ムシクイ、ツミ、ノスリを探して野鳥の森
まで歩きます。

Young探鳥会「羽を知る会」(要予約)

期 日：10月8日(日)または15日(日)



2022年10月29日の渡良瀬遊水地探鳥
会。中央エントランスから谷中湖を渡り切った
地点で北東方向を望んだ風景です。
広々とした遊水地の草原と青空がきれい
でした。(編集部)

担 当：廣田
※予約申込制です。9月上旬までに開催日時
その他詳細を決定し、HP・SNSに掲載します。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：10月15日(日)
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交 通：JR北浦和駅東口バスターミナルから
東武バス1番乗り場「さいたま市立病
院行」8:21発で終点下車。
解 散：正午前に集合地で。
後 援：さいたま市立浦和博物館
担 当：須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、小菅、
小林(み)、楠見、中橋、畠山、三好
見どころ：10月は「ノビタキ探鳥会」です。河川工
事が進み、観察回数は減ってきていま
すが昨年にも観察する事ができました。
ノビタキを求めて芝川沿いを歩きます。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期 日：10月28日(土)～29日(日)
集 合：28日午前9時、長野駅コンコース、新
幹線改札口を出て右側。
交 通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大
宮7:17→熊谷7:30→高崎7:45→長
野8:37着)、または「かがやき503号」
(東京7:20→大宮7:45→長野8:40
着)など。
解 散：29日16時頃、長野駅前。「あさま626号」
(16:25発)に乗車できるように調整。
費 用：16,000円の予定(1泊3食、現地バス
代、旅行傷害保険料等)。万一過不

足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：12名(募集人数)

申し込み：当会ホームページで9月1日から受付開始。

担当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)

見どころ：近頃、戸隠の紅葉もツグミたちの到来も遅くなったような気はします。いつも10月第4週ですが、今年は10月も遅くの開催となります。さて、どんな小鳥たちが期待できるでしょうか？

その他：宿泊は男女別2名1室(夫婦は同室)。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月28日(土)

集合：午前8時45分、中央エントランス駐車場。

交通：東武線館林行き 新越谷7:23春日部7:38東武動物公園駅7:43で南栗橋行きに乗り換え 南栗橋7:54着で東武宇都宮行きに乗り換え 柳生8:10着。またはJR宇都宮線下り大宮7:27 栗橋7:55着 東武日光線に乗り換え 柳生8:10着。遊水地への標識に従って中央エントランスへ。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーンで。

担当：佐野、小林(み)、野口、別井、山本(恵)、山本(巧)

見どころ：谷中湖ではまだエクリプスのカモを、ヨシ原では帰ってきたばかりの冬の小鳥を探します。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月29日(日)

集合：午前8時45分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点循環コース8:05発で「埼玉古墳公園」下車、徒歩約2分。

解散：正午ころ、蓮池前の芝生広場。

担当：相原(修)、相原(友)、大畑、別井、村上(政)、茂木

見どころ：猛暑も終わり待望の冬鳥の季節の始まりです。公園とその周辺で、渡って来たばかりのジョウビタキなどの小鳥たち、水辺ではカモやクイナ類を探しましょう。

突然の訪問者

尾上愛実(松伏町)



5/24、大学が午前休だったので、いつものように松伏総合公園周辺を回る。キアシシギやチョウゲンボウを確認し、さあ帰ろうと公園を抜けた辺りで、突然住宅地からオナガの警戒声。カラスかな？ではなかった。東側から低空で猛禽が飛んで来たのだ。

双眼鏡を覗く、第一印象は「えっ、誰？誰ですか?」。ハイトカ属ではないし、なんだか大きいし、咄嗟に名前が浮かばない。すぐにカメラを構えるが、近すぎてズームアップしすぎてしまう。あつという間にその謎の猛禽は上空に舞い上がり、太陽に隠れた…。太陽から出てくるのを待って写真を撮る。その猛禽はさらに高く上がり、見る間に南東に消えていった。

その後、家へとむかいながら写真を見て頭を悩ませていると、ふとひらめいた。「ハチクマ?」ドキドキしながら『フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版』文一総合出版で確認すると、やはりハチクマ! 色彩変異が多いハチクマだが、当該個体には尾に2本の黒い横帯がある、体下面が白い。図鑑の「淡色型♂ ad.」に最も近い! そして、これが松伏総合公園周辺での記念すべき101種目となった。

後から考えると、渡るときは上空を飛ぶはずなので、この時は松伏総合公園近くで一休みしていて、渡るために飛び上がったのではないかと考えている。猛禽の渡りルートが近くにあるのかもしれない。今後も注視していくつもりだ。



行事報告

12月18日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加:24(会員24)名 天気:晴

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、ヒメアマツバメ、トビ、ツミ、ノスリ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ジョウビタキ、ピンズイ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ(35種)(番外:ガビチョウ) 上空にトビ、ノスリ、ヒメアマツバメ。イカル、亜種リュウキュウサンショウクイ、アオゲラの姿も。ピンズイを全員で確認したのち、山田大沼に下り数は少ないがカモを8種類見た。(中村豊己)

12月18日(日) さいたま市 三室地区

参加:23(会員22)名 天気:晴後曇

マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ(27種+ハタカ属不明種)(番外:ドバト) 芝川の水位が下がり、サギ類が多く見られた。また、タヒバリとヒバリの群れも観察し、両種の違いを勉強できた。(須崎 聡)

12月24日(土) さいたま市 岩槻文化公園

参加:25(会員25)名 天気:快晴

マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、イカルチドリ、タシギ、イソシギ、セグロカモメ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(35種)(番外:ドバト) 開始早々鉄塔の上で餌を啄む

ハヤブサ。上空を飛翔するオオタカ。水管橋に止まるチョウゲンボウ。さらに別個体のチョウゲンボウ。最後は長い時間旋回するノスリと、猛禽類のオンパレード。(長野 誠治)

12月25日(日) 幸手市 宇和田公園

参加:25(会員25)名 天気:晴

マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、トビ、ハタカ、コゲラ、コチョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ(31種+ハタカ属不明種)(番外:ドバト) 公園内で小鳥を探した後、田んぼを見てから中川の土手へ。イカルチドリが数羽見られた。遠くの電線になんとコチョウゲンボウ。(佐野和宏)

1月4日(水) さいたま市 さぎ山記念公園

参加:27(会員27)名 天気:晴

キジ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アトリ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(38種)(番外:ドバト) 参加者を2グループに分けた。自称ビギナーのグループでは、参加者の皆さんが自力で野鳥を見つける楽しさを体験。(大井智弘)

1月7日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加:37(会員35)名 天気:快晴

ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオバン、ダイゼン、ハジロコチドリ、シロチドリ、ミヤコドリ、イソシギ、ミュビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハヤブサ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキ

レイ、オオジュリン(38種)(番外:ドバト) ハマシギ、ミユビシギ、ミヤコドリをたっぷり観察できた。ハマシギの群れに襲い掛かるハヤブサの出現に皆が沸き立つ。堤防上に1羽でいるハジロコチドリを発見。(菱沼一充)

1月8日(日) 加須市 渡良瀬遊水地
参加:50(会員49)名 天気:晴

ヒシクイ、マガン、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、メジロガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ツルシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、アオジ(55種)(番外:ドバト、コウノトリ) まずは水鳥を観察。上空をマガンとヒシクイの群れが飛んだ。浮島ではコウノトリや顔の白いチュウヒが見られた。越冬ツバメが乱舞し、最後はツルシギも。(佐野和宏)

1月12日(木) 久喜市 久喜菖蒲公園
参加:14(会員14)名 天気:晴

ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、ハイトカ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン(34種)(番外:ドバト) ヨシガモが順光で綺麗。白いミコアイサは遠目でも目立つ。ハシビロガモのサブエクripsも観察でき、カモ9種を楽しめた。園路では空にタカが舞い、桜の枝にシジュウカラやメジロ、コゲラも採餌に忙しい。葦原ではホオジロやツグミ、岸辺からカワセミも飛んだ。(長嶋宏之)

1月14日(土)
群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young
参加:44(会員19)名 天気:曇

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ツルシギ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ハイロチュウヒ、ハイトカ、ノスリ、アカゲラ、コチョウゲンボウ、モズ、コクマルガラス、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン(48種)(番外:コウノトリ) カワアイサ、ホオジロガモ、ミコアイサなど水鳥が楽しめ、ミヤマガラス、コクマルガラスの群れが上空を通過。ヨシ原ではハイロチュウヒ雌が舞ってくれ、チュウヒも数羽。コチョウゲンボウも楽しめた。(廣田純平)

1月14日(土) 春日部市 内牧公園
参加:14(会員14)名 天気:曇

キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、アオジ(24種) シメ・アオジは少数派。ジョウビタキ・カシラダカは出現せず。久し振りにカワウの群れが飛ぶ。(石川敏男)

1月15日(日) さいたま市 三室地区
参加:37(会員27)名 天気:曇

オカヨシガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、オオバン、ヒメアマツバメ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(31種)(番外:ドバト) 3年ぶりに申し込み不要。この冬は少ないと心配だったツグミやシメなども、ここでは珍しいヒメアマツバメも、顔を出してくれた。(小林みどり)

1月19日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加:37(会員32)名 天気:快晴

ヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、クイナ、バン、オオバン、トビ、ノスリ、カワセミ、アリスイ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、シベリアジュリン、オオジュリン(41種)(番外:ドバト) 沼ではミコアイサのメス、湿地の樹上のカシラダカのすぐ下にアリスイ。カシラダカを追い払ったのは真っ赤なベニマシコ。ヨシ原ではシベリアジュリンも確認。(相原修一)

1月22日(日) 狭山市 入間川

参加:25(会員24)名 天気:曇時々晴

キジ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、イソシギ、ミサゴ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ(42種)(番外:ドバト) 頭上にイカル。亜種ダイサギと亜種チュウダイサギを比較。「川面吹く 冷たき風もものとせず イカルチドリは動き軽やか」(石光 章)

1月28日(土) さいたま市 大宮市民の森

参加:52(会員46)名 天気:晴

カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、バン、ヒメアマツバメ、タシギ、クサシギ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ(31種) 2班で別コースを探鳥。当たり前だが見られた鳥は別々であった。31種と市民の森としては普通だが個体数が少ない!(青木正俊)

2月4日(土) 所沢市 狭山湖

参加:28(会員24)名 天気:晴

マガン、ヨシガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、ユリカモメ、ミサゴ、トビ、オオタカ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、イカル、アオジ(39種)(番外:ドバト、ガビチョウ) トモエガモが400羽超の大群で入っており堪能。「いずこより迷い来たるや雁一羽 しげく餌(え)を食(は)む姿さびしも」(石光 章)

2月5日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加:38(会員26)名 天気:快晴

カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、イカルチドリ、クサシギ、トビ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ(39種)(番外:ドバト、ガビチョウ) 林にイカルの群れ。上空にハイタカ。左岸にジョウビタキ、カシラダカなど。河原にクサシギ、イカルチドリなどがいて、ツミ、ノスリが飛んだ。(千島康幸)

2月5日(日) 北本市 石戸宿

参加:25(会員25)名 天気:快晴

キジ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、クイナ、オオバン、タシギ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、アオジ(31種)(番外:ガビチョウ) 最初はシメ。アオジ、シジュウカラの群れ、エナガも。河川敷で頭上高くにノスリ。北里の森沿いでアカゲラ、アオゲラ。氷の張った高尾の池でオオタカ。(吉原俊雄)



連絡帳

●会員数は

6月1日現在

おおぞら会員	584人
赤い鳥会員	458人
生涯会員	14人
個人特別会員	73人
家族会員	328人
合計	1,457人です。

活動報告

5月9日(火)、県の令和4年度野生鳥獣保護団体補助金に関する当会からの報告に対する返信、県からの交付確定通知書を、メール受信した。

5月28(日) 16:00、オンライン普及部会を開催。令和5年9-10月探鳥会計画(案)を作成した。

同日16:50、長野誠治普及部長から、令和5年9-10月探鳥会計画(案)の議案上程メールが事務局に届き、事務局担当海老原は、翌29日(月)9:51、この件につき役員会ML(メーリングリスト)による役員会を開催すること、ご意見ご異議等の提出期限を、5月31日(水)午後2時までにするのを、当会役員会MLに送信しました。

締切期限までに反対意見は届かなかったことから、本議案は承認されたものとした役員会報告を、6月1日10:07、役員会MLに送信しました。

しかしその後ML管理担当者から届いたメールによると、この2件のメールはMLの不具合で6月2日になって送信されたと

のこと。すなわち、5月31日(水)午後2時までの意見異議提出期限は無意味のものとなったことから、あらためてこの役員会を「20230603-0605役員会」と名称変更、意見異議締め切り期限を6月5日(月)午後2時までに変更して、6月3日役員会MLに送信しました。

新たな締め切り期限日時までに反対意見は届かなかったので、本議案は6月5日(月)午後2時に承認されました。

初めてのML不具合に対応された管理ご担当者など、役員の皆様のご協力に感謝します。

編集後記

本誌『しらこぼと』が隔月発行になってから約2年が過ぎた。隔月になれば多少日程に余裕ができるかと思っていたら、編集部長から原稿催促のメールが届くのが早いこと。

でも、原稿を送ってしまえば、あとは多くの編集部員たちが校正、適正誌面化、入稿などの作業を分担してくれる。

事務局をはじめとして、役員、各部の部長、部員たちも、当会は皆ボランティアで活動している。ボランティアの皆さんの底力を、感じ続ける日々である。(海)

新型コロナ禍から以前の生活を取り戻しつつありますが、委縮した心のリハビリが一番の課題と感じています。自粛期間中はTVの自然番組や図書館にはお世話になりました。しかし自分の眼でしっかりと観ることの大切さも痛感しました。フリーとなった探鳥会への参加を増やし、行動の幅を拡げるよう努めています。今月号の行事案内を見ても再開された探鳥会が見受けられて嬉しい限りです。(相原)

しらこぼと 2023年7-8月合併号(第459号)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <https://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org またはTEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。